

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	いきるちから5		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27人	(回答者数) 23人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数) 9人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育が充実している。	通常の個別療育、機能訓練だけでなく、集中的に取り組む時間を土曜日に実施している。取り組み内容、結果、また次回への課題までフィードバックを行っている。	今後はペアレント・トレーニングも行っていきたい。
2	イベント	月に2回以上イベントを立ち上げ、普段見られない姿を見出すことが出来ている。	いきるちから1~6のコラボだけでなく、他事業所との合同イベントも企画、参画している。
3	就学児が多く、年上との関わりがもてる。	生活動作、取り組みの切り替えなど、家庭でなかなか進まない課題が、流れの中で体得することが出来る	年上が年下のお手本になる流れを体系化し、それぞれの世代で継承する文化を作りたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	男性職員が少ない。	男児のトイレトレーニング、大きい体格の児童の対応が困難になってきている。	男性職員の積極的な採用を促す。大きな児童でも信頼関係を堅固なものとし、パワープレイでなく、言葉で理解してもらえるように何度も声掛けをしていく。
2	スタッフの平均年齢が若い	経験が浅い。	推進力、実行力はあるので、ベテラン職員との討議をすることで、安定した支援が出来ている。
3	プレイルームが狭い	粗大運動を求める活動には限界がある。	身体を大きく動かす運動については公園などの屋外、体育館などを借りて行う。